

第157回「省エネ学習会」

コロナと温暖化

2020-8-7

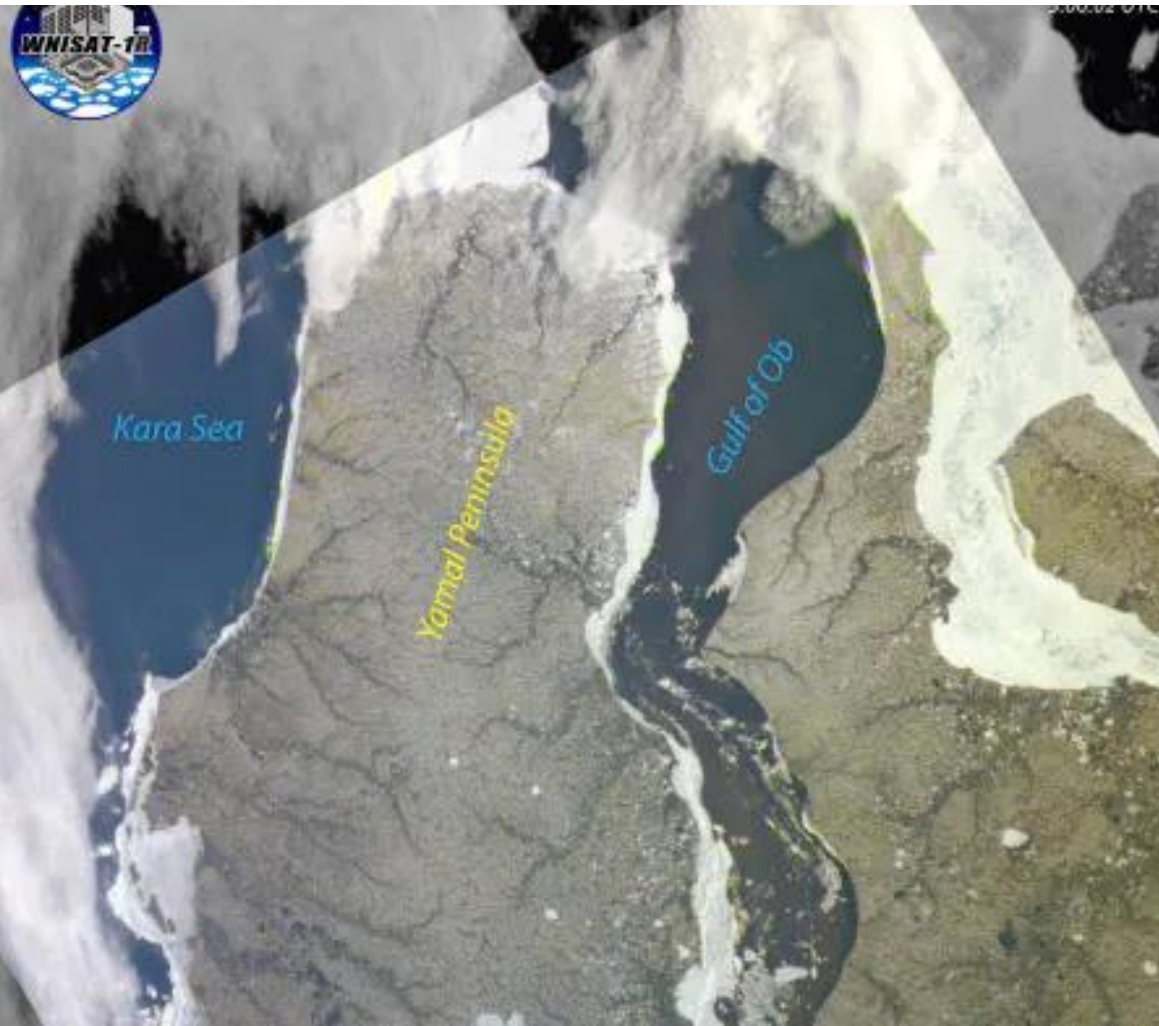
温暖化防止ながれやま

「省エネ学習会」担当

(天気のなぞ) 北極の高温 大雨の一因

シベリアで6月史上最高**38度** 偏西風蛇行、極端な暑さも

2020/8/5付日本経済新聞 夕刊



シベリアに近いカラ海などで氷の融解が進む
(6月8日、「WNISAT-1R」で撮影)

各地でようやく夏空が広がるようになった。今年の梅雨の大雨は、熱帯の高い海面水温だけでなく北極の高温も一因となった可能性がある。上空の偏西風の蛇行を強め、悪天候を長引かせたようだ。**偏西風の蛇行は続いており、今後も不安定な天気や極端な暑さをもたらす恐れがある。**北極ではシベリアの異変が顕著で、6月20日にはロシアのベルホヤンスクで観測史上最高の38度を記録した。世界気象機関のまとめでは6月のシベリアの平均気温は平年を約10度上回った。北極海の氷も少なく、ウェザーニューズによると今夏の最小面積は1979年の観測開始以来、5番目に小さくなる見込みだ。

東京大学の中村尚教授によると、顕著な高温は大気の流れに影響を及ぼした。**北極海付近の比較的冷たい空気とシベリアの熱い空気との大きな気温差が原動力となり、高緯度地方の上空を吹く亜寒帯ジェットと呼ばれる偏西風が強まった。**亜寒帯ジェットは大気其自然変動に刺激され大きく蛇行したとみられる。ジェットが強かったためにいったん生じた蛇行は崩れにくく、持続した。この蛇行はオホーツク海の西に高気圧をつくり出して停滞させ、南の太平洋高気圧との間で梅雨前線が活発化した。**北極の高温の影響がインド洋の高い海面水温や太平洋高気圧の控えめな張り出し方と重なり、長梅雨の条件がそろった。**シベリアの気温はいったん下がったが、7月にはスバルバル諸島周辺などに高温域が現れた。亜寒帯ジェットは位置を変えながらもかなり蛇行しており、何かのきっかけで再び梅雨と似た気圧配置に戻る可能性もある。

前線帯はしばらく北日本付近に残り、時折上空の寒気の影響で局地的な大雨や雷雨をもたらす恐れがある。一方、ジェットの蛇行の仕方によっては熱波が日本に入ってくることも考えられ、熱中症に注意が必要だ。（編集委員 安藤淳）

風しよよむ

コロナと温暖化

2020年6月28日「TBS:サンデーモーニング」

2020年7月12日「TBS:サンデーモーニング」

コロナ後の世界は明るい！

都市封鎖での
大気汚染物質／CO2
排出減は

限定的だからこそその
変革を



<https://news.yahoo.co.jp/byline/shivarei/20200531-00181183/>

ANN

NEWS



新型コロナウイルスが要因の一つか

独自

CO₂濃度の増加ペースが急減

0:01 / 0:57



https://www.youtube.com/watch?v=bsPZs1NaQ_I

GomiTube #1

コロナと温暖化は
どっちが大事!?

 国立環境研究所

<https://www.youtube.com/watch?v=1xjNg1z5ees>



働き方改革 共創ワークソリューション「Zoo...



後で見る



共有

その他の動画
再生 (k)



0:03 / 4:11



YouTube



<https://symphonict.nesic.co.jp/zoom/>

おわり